

## 『田村大三指笛音楽65周年記念 コンサート 聴衆の感動を呼ぶ』

1999年(平成11)4月3日(土)田村大三指笛音楽65周年記念コンサートが、東京新宿の朝日生命ホールにおいて開催されました。本年は田村先生が昭和9年に東京神田神保町のすずらん通りの四つ角で、指笛音楽と銘打って初めて世に発表して65年になります。先生は指笛で音楽を奏でることを思いつき、それを実践し確立されました。そしてそれを単に大道芸に終わらせることなく、指笛音楽という芸術にまで高めるべく研究と公演と指導・普及に努めて来られたのです。

先生が85歳という高齢になられ、ファンの方々もご年配の方が多きことだろうから、と当日はお客さんの出足を気にしていましたが、私達門下生の心配をよそに大勢の方がご来場下さいました。

コンサートは第一部門下生の部と第二部田村ファミリーの部の2部構成で行われました。第一部には門下生16名と女性合唱の美鈴会が出演し、日頃の練習成果を披露しました。終了後、中村倫二氏と倉木成伊知氏がそれぞれ高等科及び中等科の合格証を田村先生より頂きました。因みに高等科修了とは師範、中等科修了は準師範を意味するということを田村先生よりうかがったことがあります。おめでとうございます。

第二部は田村大三先生を中心に、山本静海先生(田村夫人)及び中村洋美(長女)石原泉(次女)、松島恵(三女)の各先生と星羅さん(恵先生長女)がファミリーで総出演なさいました。近藤雅俊氏率いる東京リサーチ合奏団の演奏と石原先生のピアノ伴奏によって指笛演奏と歌が展開され、ご来場の聴衆を大いに魅了しました。田村先生は終演後ご自分で愛車を運転なさってご家族と帰宅されました。見送った私達門下生は「これぞ85歳」と驚きと感嘆と祝福と尊敬の念を込めて、新宿の夜の街に行く先生の車に向かってピーピーとやったのでした。この一幕は次回の88歳公演に向かったの、これなら大丈夫というスタートのようでもありました。(H. S)

### ご来場者からのお便り

⊕ 〒 ⊕ 〒 ⊕

田村ファミリーは素晴らしかったです。田村先生が音楽一筋に生きてこられた生きざまをみる思いの今回でした。このお歳の方ですからさぞや厳しい時代を生きぬいてこられたであろう…にも拘らず指笛音楽をここまで完成されたご立派さに心から拍手を送らせていただきました。会場の皆様もきっとそんな思いで拍手をお送りしていたと思います。ほんとうに感動の音楽会でした。私の友達もこんなに素晴らしい音楽会に来られた事に感謝していました。ほんとうにありがとうございました。

(東京都板橋区 小原幸子さん)

指笛って何と素晴らしい楽器なんでしょう。指一本を使っていろんな楽器と並んで演奏する指笛の、ひときわ美しく奏でる音色に心を奪われ感無量でした。特に田村先生の指笛が奏でるメロディーの数々を拝聴して、65年余りの歳月のご苦労と努力の跡がしみじみと聴いている人の心に伝わり、感動させるのではないのでしょうか。田村先生にはこれからも益々お元気で、指笛を通して文化の交流と世界平和の懸け橋として頑張ってくださいよう願う者です。（当日はご両親と一緒にご鑑賞下さいました。）

（東京都練馬区 阿部留美子さん）

いつもの安田生命ホールから朝日生命ホールへと会場を移しての、田村先生65周年記念コンサートは、心あたたまる音楽会でした。門下生の皆さんの指笛も、回を重ねるごとに進歩のあとがみられ、楽しく聴くことができました。そして、田村先生の余裕のある指笛、飾り気のない人間性溢れる舞台姿は、舞台と会場を一つに結びつけていて印象深いものとなりました。

また、先生ファミリーによる演奏もすばらしいものばかりで、特に、奥様の水野源三作詞「こんな美しい朝に」のソプラノ独唱は、感銘を覚えました。水野源三氏は重度の脳性まひ者で、私が養護学校に勤めていた関係からか、水野氏の作品を思いがけず聴くことができ、感動のひとつときでした。ありがとうございました。

（埼玉県川越市 斉藤義信さん）

## 反省会あれこれ

b♯♪ b♯♪ b♯♪ b♯♪ b♯♪

4月25日（日）に田村先生宅において、65周年記念コンサートの打ち上げと反省会を行いました。出演者14名と会員及びお手伝いの方6名が出席し、たいへん賑やかな会となりました。以下に皆さんの一言ずつをご紹介します。編集子の記録の執り方が不十分で、長短があったり意を尽くせない部分があると思いますがご容赦下さい。（敬称略）

（田村 大三） ご苦労様でした。65年前どうして神田神保町のすずらん通りの四つ角に立ち、世に向かって指笛を発表したか……それ以来実に沢山の人が力を貸して下さい。数えきれない。心から感謝申し上げます。

（藤好 清晴） カラオケで練習したが難しかった。コンサートではトップバッターだったので緊張した。どうしたら良いかと思い手を叩いたら、お客さんが手拍子をとってくれた。しかしそれでも緊張した。

（長尾 立子） 3回目の出演だった。第一回目を振り返るとずうずうしくなったと思う。音程は狂わなかったが、次回からはもっと大きな音が出せるようにしたい。この1年の課題だと思っている。

（結城 リー） 練習中は楽しかった。カラオケボックスで指笛と踊りの双方を練習した。トルコ行進曲は速い部分が難しかった。

（吉田 重雄） 病気のため止むなく欠場した。病気前のレベルに戻るには1年ぐらいかかりそうだ。家内と一緒に弁当の販売を担当した。今回は足りなくなるほど完売したいものだ。

（藤好 真也） 父と一緒にカラオケで練習した。70点位のできだった。やはり演

奏は生伴奏がいい。会場でアンケートをとった方がよい。プログラムの見直しが必要だと言われた。

(杉田 隆則) 指笛は14歳から始めた。今までは不安でしよがなかつたが、今回初めて思うように吹けた。指笛は自分で吹いていると気持ち良いが、この段階ではまだ駄目だ。(ここで指笛の講義が始まったが省略。低音の練習が特に大切だとのことでした。関心のある方は杉田さんにうかがってください。)

(川上 勝二) 自衛隊の少年工科学校の時、先輩が指笛を吹いたのが最初の出会いである。来年は是非皆さんと一緒に出演したい。

(船田 弘子) 毎年1年振りのこの演奏会を楽しみにしている。心が洗われるようだ。まだまだ指笛を知らない人を誘いたいという気持ちが増してきた。

(中村 倫二) レッスンを受けるようになって満6年となった。明日で150回となるが一日も休まなかつた。田村先生は手とり足とり教えない。これは昔の師匠のやり方で見様見真似ということだ。高等科合格證を頂いたことは負担、プレッシャーとなったが、これからが指笛のスタートであると思う。

(竹中 速雄) 新しい方が上手になっていて、旧い者にとって刺激となっている。是非年1回は発表会を継続してもらいたい。ある程度吹けるようになった人は各自がそれぞれの場で拮げていくと良い。

(松谷 茂) 指笛を初めて10年経った。10年経っても悩んでいる。1年目の時指を動かしながらピブラートをかけたら、先生からやめなさいと言われた。10年経ったら自然とピブラートがかかるようになった。コンサートはバラエティーがあつて良かった。終了が8時半となつてお客さんにも良かった。今年1年も「平成山」一筋で行く。

(石原 浩行) 今回は楽屋で鑑賞した。それぞれ指笛に個性があると感じた。心に沁みる感じのするものだった。

(石原 泉) 赤ちゃんができて、伴奏のお手伝いができず申し訳ありませんでした。自分の曲を決めぶつかつていくということで、一回り大きくなれたと思う。

(武井 洋子) 河津さんと二人でできてあのような形となりました。(これ以上は記録漏れで失礼。でも中村さんの指揮で会場の皆さんが歌えたのがとてもよかったです。とても和やかな雰囲気となりました。)

(金子いずみ) 大盛況ですごいと思つた。受付のお手伝いで皆さんの演奏が聴けず残念でした。開場が遅れお客さんがロビーに溢れてしまった。

(橋本のりこ) 受付のお手伝いをした。いろいろな演奏会に行くたびに、受付でモグリをしている方が気になる(笑い)。この場でいろいろな世代の方々に会えることを感謝している。

(斎藤 秀元) 出番5分前だというのに自分が演奏する歌のメロディーを思いだせず、舞台裏でおおあわてした。焦ると余計に別のメロディーが浮かんでしまった。今回の演奏会は楽友会のメンバーが今まで以上に運営のお手伝いできた。これからはもっと組織的に活動できれば素晴らしい。

(水沼 武彦) バイオリニストとピアニストの二人と月曜日に集まって練習しているが、今回のことを知り伴奏をして下さつた。二人は田村先生が85歳にして65

周年の演奏をなさったことに大きな感動を得たと言っていた。自分の演奏を録音して聴くことを怠っていた。今回聴いてみてがっかりした。一つひとつの音に精神を込めることができていることを反省した。

※ここで、指笛はピアノ伴奏による練習が大切であり、そのためには石原泉先生にぜひピアノの録音テープを沢山作って頂きたい、と水沼先生はじめ皆さんからお願いがあった。

(山本 静海) この感動は人間が作ったものではない。私達の作った力ではない力が働いている。皆で支えて下さったことに感謝したい。一人一人の顔が浮かびます。(静海先生からは、会の冒頭に今回のコンサートに関わる内容の濃いお話があったのですが、編集子が聴き惚れていたため記録するのを忘れてしまいました。たいへん失礼いたしました。)

### 指笛ファンからのお便り

〇〇先生、大三先生のテープをお送り頂き、ありがとうございました。繰り返し、くりかえし聞いています。透き通ったもの悲しい音色が、心の中に浸み通って行き、少し汚れてきた私の心の中が、洗われて行くような気持ちです。

十年前、療護園(註 身体の不自由な子ども達が入院して治療や訓練を受ける施設)の講堂で、初めて大三先生の指笛を聞いた時の感動と今の感動に違いはありません。どうして、こんなに惚れたのでしょうか。

先日教えて頂いてから、忙しさに取りまぎれて、まだ真面目に練習をしていません。早く田村先生の孫弟子になれるように、まずは、これから音を出す努力をしてみたいと思います。先生、ありがとうございました。 礼子

礼子さんは40年位前の少女時代に、施設のベッドの上で、慰問に来られた田村先生の指笛を聴き、それがずっと心に残っていたようです。素敵なお話に感動しました。仲間入りして下さる日を楽しみに待っています。

事務局より ※新入会員の紹介 名簿にご記入願います。

片井 久雄さん ☎385-0034 長野県佐久市平賀2714

☎ 0267-62-2467 片井さんは去年も今年も演奏会を聴きに来てくれました。長野で高橋美千代さん達と草笛の活動もなさっているそうです。

※原稿をお寄せ下さい。指笛をとおして地域などで活動している様子をお知らせ下さい。送付先は、田村大三方 指笛楽友会事務局宛お願いいたします。

※訃報 田代順一会長のご母堂が逝去されました。丁度ご葬儀が65周年記念コンサートと重なり、お悔やみを申し上げられず、たいへん失礼いたしました。ご冥福をお祈りいたします。

※11年度の会費(3,000円)を同封の振込み用紙でお納めください。コンサートに花輪を贈ることができました。

指笛楽友会事務局

☎ 03-3923-9714

田村 大三方